

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価 (3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①幅広い学習ニーズに対応する多様で柔軟な教育課程を展開する。 ②「確かな学力」向上のため組織的な授業改善を推進し、生徒が主体的に考える力を育てる。	②「確かな学力」向上のために教育課程の編成及び授業改善を行い、生徒の学習意欲の向上を図る。	②教員相互の授業見学や研究授業、研究協議を活性化させ組織的な授業改善に取り組む。	②生徒による授業評価や生徒学力調査の結果。	②11月に教員相互の授業互見週間を設定するとともに、荏田南中学校への授業参観を行った。また、外部講師による授業改善のための研修会～社会の変化に伴う、「教育改革」の概要と、具体的な対策について、学校現場を支援する立場から～を実施した。 ②生徒による授業評価や生徒学力調査のアンケート結果からは概ね満足を得られた。	②授業互見は20件あり、昨年度とほとんど変わらなかった為、多くの職員が参加できる体制を整える。 ②「思考力・判断力・表現力を育む授業」の展開～主体的・対話的で深い学びの視点から～を引き続き学校の全体目標として共有し、「教授」から「学習」へのパラダイム転換を目指した授業改善を行い、生徒の学習意欲の向上を図る。	・「生徒による学校アンケート集約」の結果により、目標を概ね達成できたことが確認できた。 ・外部講師による授業改善のための研修会が適切であると認識できた。	・アンケートの結果から概ね達成できたとの評価を得られたが、一部に「D：まったくあてはまらない」という項目がある。その対応策を練り、新年度の早いうちに取り組みたい。また「E：わからない」との回答が出てしまうのは、学校から情報が周知できていないことが原因の一つと考えられるため、HPを充実させることが必要である。 ・授業互見は形式だけでなく、実のある取組にしなければならぬ。	・「学校評価アンケート」の集計結果の(生徒用・保護者用)をしっかりと分析し、各グループの検討事項としていく。 ・荏田南中学校との授業参観による交流は定着したが、ただ参観だけするだけではなく、お互いの授業について協議し、授業改善のあり方等を話し合う機会を持ちたい。 ・外部講師による研修会を今後も継続し、新学習指導要領の導入に向けて取組の活性化を図っていく。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	①「健やかな体」と「豊かな心」を育成し、心ふれあう教育を推進する。 ②部活動や生徒会行事を通して生徒が自主的・自立的に活動する姿勢を育成する。	①交通安全教育を推進する ②部活動及び生徒会行事の活性化を図る。	①自転車登下校の事故防止とマナーの向上を図る。 ①学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的な対策を実施する。 ②部活実績の内外への周知。部活加入率の増加。 ②生徒会役員を中心とした生徒による行事の自主運営をはかる。	①自転車登下校による事故・けがが減少したか。 ①組織的な対策ができたか。 ②HPの部活実績の更新回数。部活動加入率80%の維持。 ②業務分担の実績、アンケートの結果。	①昨年度より、わずかであるが減少した。 ①個別の件について、関係者でチームを作り対応した。 ②部活動実績の更新は3回おこなった。部活加入率は5月76.5%、11月75.3%だった。 ②生徒のアンケート結果に基づき行事内容の変更を行った。	①引き続き、交通安全教育が必要である。 ①いじめと認知する基準が難しく、臨機応変な対応が必要である。 ②よりタイムリーに更新するシステム作りが必要である。運動部員が減少傾向にあり、条件整備が急務である。 ②より早く、生徒全体の意見を集約し、本部の提案をクラスで検討させたい。	・昨年に比べ、自転車の乗り方、マナー、制服の着方など良くなったと思う。 ・自転車点検で注意を受けた生徒、保護者への告知と再点検が必要。また基準を満たしていない生徒の自転車通学を認めない案も検討してみようか。 ・応援団の時間短縮や部活動リレーの復活を望む。 ・不登校生徒に対するケアの把握。 ・生徒会活動に参加している生徒とそうでない生徒の温度差がある。 ・PTA活動を通して、目標を概ね達成したことを確認できた。	・自転車等のマナーに関しては以前に比較するとだいぶ改善された。引き続きマナーも含めた交通安全教育を充実させなければならぬ。 ・自転車点検の結果がほとんど活かされていないのが現実であり、交通事故防止のための啓発活動は今後とも必要である。 ・SNSによるいやがらせ行為等が課題である。未然に防止する方策が必要である。 ・多方面からHPの充実が急務であるとの指摘がある。年度当初に、そのあり方を検討したい。	・新入生に、自転車の乗り方やマナーなどを具体的な事例をもって教える必要がある。学年集会などの場を利用して啓発を進めていく。 ・部活動の加入率が減少傾向にある。「部活の荏田」の看板を維持していくためには、活動場所の環境整備を今後とも続けていく必要がある。 ・SNSによる諸問題は継続的に注意をしていくしか有効な策はない。HRや部活動の場でも注意を促す姿勢が必要である。

3	進路指導・支援	生徒一人ひとりのキャリア形成を助長する進路支援の充実を図る。	個々の発達を踏まえるとともに、高大接続改革に対応した「キャリア教育実践プログラム」の充実を図る。	現在進行中の高大接続改革を見据え、本校の生徒の一人ひとりに適した「キャリア教育実践プログラム」を作成する。	本校の実状を踏まえた「キャリア教育実践プログラム」を作成できたか。	生徒一人ひとりのキャリア発達を促すという観点でのプログラムを作成できた。	大学入学定員の厳格化の影響から、生徒の進路決定プロセスに変化が生じてきている。AO入試にチャレンジする生徒が増加傾向にあることを踏まえて、より良いプログラム作成を目指したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・一般受験に対して、もう少し親身になって欲しい。 ・どこまで生徒一人ひとりに寄り添った支援をしていたのか不安がある。 ・「生徒による学校アンケート集約」の結果により、目標を概ね達成できたことが確認できた。 ・高大接続改革について保護者への周知が必要であると感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般受験の生徒への配慮については、指定校推薦で決まった生徒たちの指導も含めて大きな課題である。 ・高大接続改革については、教員間での理解は進展してはいるものは至っていない。新年度の大きな課題の一つである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒一人ひとりに寄り添った配慮がある」という指摘がある。生徒が教員に言われるのを待つのではなく、主体性をもって自らの進路を決めていく姿勢を持つように、恒常的に指導していく体制をさらに固めていく。
4	地域等との協働	地域社会との協働および交流を通して、地域とのつながり・絆を強化し、地域とともにある学校づくりを推進する。	近隣小中学校や自治会等と連携した地域貢献活動を行い、仲間と協力して自己の能力を社会のために役立てる意義を考えさせる。	自治会行事やボランティア活動の参加を引き続き推進する。また部活動生徒による出前技術指導を実施し、近隣の小学生を招いての書道交流も昨年度同様に年に1回実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会行事やボランティア活動の参加回数や種類の増加。 ・部活動出前技術指導や書道交流の実施回数の維持。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会行事や介護施設でのボランティアの参加種類は昨年度と同じだが、参加回数が昨年比で3回増えた。また、個人申し込みのボランティアに関する問合せが増えた。 ・部活動出前技術指導は12回実施した。書道交流は昨年と同様1回実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動のあり方について、計画的に企画・実施・検証し、引き続き参加を推進したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページをもっと頻繁に更新したい。 ・近隣小中学校の行事、ボランティアが増加し、地域とのつながりや、社会に役立つ必要性を学べている。 ・自治会やボランティア活動にもPTAも積極的に参加している。 ・PTA活動を通して、目標を概ね達成したことを確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は10月25日に「創立40周年記念式典」を地域の協力も得て、挙行することができた。「絆」というテーマに沿った内容に、多くの生徒の記憶に残る取組となった。 ・地域連携は荏田南地域から都筑区へとさらに枠を広げた。またPTA活動が活性化したことにより、「顔が見える」関係作りが達成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの視点から指摘があるが、本校のHPのあり方については、早急に対策を練って、活性化しなければならない。リアルタイムで行事の情報、部活動の情報などを提供できるような体制作りが急務である。
5	学校管理 学校運営	①信頼に根ざした学校づくりを推進する。 ②不祥事・事故防止の徹底を図る。	②私費・県費とも適切な執行を図り、誤りのない書類の作成を徹底するとともに、伝票が職員の手元で止まらぬように円滑な会計処理に努める。	②複数の担当者により適切な執行が行われているかを確認し合う。また、伝票を起案して終わりという感覚でなく、起案後も書類が円滑に回覧されているかを気にかける。執行が滞らないようにする。	②複数で確認し、適切な会計処理がなされているか。出納簿・報告書にも誤りが無いか。書類作成から書類整理も含め会計処理が適切な日数で処理できたか。	②各会計の担当者を複数にすることにより、確認作業及び仕事の引継ぎを行えるようにした。また、予算執行に関して検討が必要であるようなものは、担当者だけでなくグループ会議等で情報を共有しながら執行するようにした。	②各教科・グループの予算執行の時期が、年度末に集中してしまい、予算の残高や繰越金の額が、次年度案作成の時期でも読みづらい状況であった。発売日などの状況で購入が遅れることがやむを得ない品物もあるが、それ以外の購入を急いでもらえるようにアナウンスを更に強化していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA会費から支出の慶弔費が、昨年度会計・役員が把握していない状態で出納簿に記入だけされていた。規約に基づいての支出は構わないが、PTAに連絡がないのは良くないと思う。 ・会計監査に至るまで複数の目で確認できている。 ・PTA活動を通して、きちんと行われていることを確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の不祥事防止のポイントが、「県費・私費の適切な執行」であったが、私費についての情報共有ができていない事例があったことは、今後の大きな課題である。 ・会計監査が例年より円滑に行われたことは特筆すべきことであり、その背景としてPTA活動全体が活発に行われていたことが挙げられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私費の執行については、PTA本部役員との連携をさらに強めていく必要がある。 ・年間を通しての計画的な予算執行が必要である。